

セクシュアルマイノリティ（性的少数者）アンケート結果

誰もが生きやすいまちづくりを進めるため、平成29年11月15日（水）から12月15日（金）まで、アンケートを実施しましたので、その主な御意見をお知らせします。

回答をお寄せいただきました方々並びに神戸IDAHO（アイダホ）はじめアンケート実施に御協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

頂戴しました御意見を参考に、今後の事業を進めてまいります。

- ◆ 期 間 平成29年11月15日（水）から12月15日（金）
- ◆ 対 象 市内在住、在勤、在学、市内の学校を卒業されたセクシュアルマイノリティの方またはご家族
- ◆ 回答方法 市ホームページ専用フォームから回答
- ◆ 回答人数 7人

◆ 回答内容

問1 セクシュアリティ（自分の自覚している性、好きになる人の性など自由に記入してください。

✚ 男性として生まれたが、女性であると自覚している ^{注1}	1人
✚ おとこ	1人
✚ バイセクシュアル ^{注2}	1人
✚ 男でも女でもない。恋愛対象は特に決めていない ^{注3}	1人
✚ 性自認は女性 バイセクシュアル	1人
✚ 女性（家族）	1人
✚ 記入なし	1人

注1）体の性（生まれながらの身体の性別）と性自認（自分自身の性別をどう認識しているか。心の性ともいう。）が異なる人を「トランスジェンダー（Transgender）」といいます。

注2）Bisexual 両性愛者

注3）心の性を男性・女性のいずれかとは明確に認識していない人を「エックスジェンダー（Xgender）」といいます。

例えば、（両性）男性・女性のどちらでもあると自認している
（中性）男性・女性の間であると自認している
（無性）男性・女性のどちらでもないとして自認している

問2 年齢

20代4人, 30代1人, 60代1人, 記入なし1人

問3 市内在学経験

あり4人, なし2人, 不明1人

問4 学校生活において、困っていたこと、悩んでいたこと、助かったこと、よかったことなど（在学中であれば現在のこと）

- ✚ 教科書では男女のカップルが当たり前。自分が特殊、異常なのかと悩んだり、病気かと思いつさぎこんだ。保健体育では男女の性差、身体の話は学ぶのに同性愛は言葉すら出てこなかったように思う。先生もオカマ、ホモを笑いのネタにしており、教育の現場も遅れていたのだと思う。
- ✚ 高校のころ携帯電話が普及して、ネットでセクシュアルマイノリティのコミュニティを発見し心強かった。学校でバイセクシュアルの友達ができ自己肯定につながった。仲間が大事だと思う。
- ✚ なんとなく学校に行きたくない日が多々あった。修学旅行の大浴場がいやだった。
- ✚ 中学の時は、男女に別れた文化についていけず信頼できる友人がいなかった。高校三年生になると周囲が化粧をしたり女性らしくなっていくのに合わせないといけないと思い、ついていくのに必死だった。いやだったけど女らしくしないといけないと思っていた。
- ✚ 仲間外れではないが、悪口を言われた。
- ✚ 特に不自由はなかった。

問5 職場で困っていること、悩んでいること、助かっていること（いたこと）、よかったことなど

- ✚ 就職前から理解してもらい、改名することができた。
- ✚ 当時付き合っていた人が同性であることを上司にバラされ、心身に影響が出た。その後も会社が恐怖の対象になっている。次の職場でも、女性らしく振舞いたくないことを理解してもらえず、「まゆ毛くらい化粧をすれば」などと言われた。
- ✚ 異性愛者にはある制度が、同性カップルにはないことがほとんど。介護休暇や配偶者手当もない。異性愛者が、家庭の事情で配慮されることが、同性愛者には認められていない。
- ✚ 職場の服装が自由なので助かっている。まわりの理解があるので、仕事をするうえで不自由なことは特にない。

問6 社会参加する上で困っていること、悩んでいること、助かっていること

- ✚ いつも嘘をついて暮らしていることがしんどい。親しくなればなるほど嘘をつく罪悪感が増しカミングアウト^{注4}したくなるが、うまくいかなかったり、受け流されてしまうことも多く孤独感が強くなる。
- ✚ セクシュアリティの集まりでもバイセクシュアルやエックスジェンダーが安心して集まれる場所が少ない。仕事や社会生活を行う上で孤独を感じる。
- ✚ 市の相談窓口でも「女性はいつか子どもを産むんだし」ということを言われ、相談したくなくなった。
- ✚ (同性のパートナーがいますが、) ある程度の歳になって結婚していないと半人前という風潮がまだあると思う。親にも結婚のことを言われるとつらい。幸せのかたちは人それぞれのはずなのに、(多くの人は) 固定観念にとらわれて、セクシュアルマイノリティ本人は幸せと感じていることまで、不幸なこととしてとらえているように感じる。
- ✚ セクシュアルマイノリティの認知が不十分
注4) 秘密にしていた自分のセクシュアリティを誰かに伝えること

問7 芦屋市の今後の取組として望むこと

- ✚ 小さい頃から、差別しない教育をしてほしい。
- ✚ このようなセクシュアルマイノリティのアンケートは必要ない。特別になにかしてほしいわけではなく、普通の人と同じように暮らせたらそれでいい。
- ✚ 議会で議論すること。市としてどのように取り組んでいくか指針を出すこと。
- ✚ 性別記載欄を自由記載にするか、またはその他欄を設けてほしい。
- ✚ 特定の窓口でセクシュアリティに関する課題を取り扱っているとそこに行く周囲にわかってしまうので、どの窓口にいても安心してセクシュアリティのことを話せる、もしくは話しても大丈夫な空気感をつくってほしい。当事者が見えないように、理解者も見えない。どの部署も研修を受けていることがわかるように窓口にマークを付けるなど、啓発効果が見えるようにしてほしい。
- ✚ パートナーシップなど、性的少数者のための制度を設けるべきだと思う。制度を作ったとしても最初は利用はないと思うが、女性の社会進出が、制度を作ってそれを推進してきた結果定着してきたように、枠組みを用意することで社会が少しずつ適用するのではないか。それを牽引して行く立場こそ、公だと思う。

- ✚ 性的少数者のサークルなど居場所作りをしている団体があれば、助成したり講演会を共催してはどうか。
- ✚ 学校の先生に正しい知識を身につけてもらう機会を充実させてほしい。
- ✚ セミナーをより多く行ってほしい。

問8 芦屋市にセクシュアルマイノリティのための電話相談窓口があれば利用しますか。

- ✚ 利用する 1人
- ✚ 場合によっては利用する 3人
 - 理由) ・ 医師に相談ができれば、利用するかもしれない。
 - ・ 外部に個人情報が出ないような仕組み、提携団体が明確でないとは利用しない。
 - ・ 市外在住者も相談できるようにしてほしい。セクシュアリティだけでなく、それに付随したDVや就労困難についても専門知識があり、必要な場合は、他の窓口につないでくれるようなパイプ役的窓口として機能するようにしてほしい。保護者や支援者など当事者以外が相談できるようにしてほしい。
- ✚ 利用しない 2人
 - ・ 相談できる友人がいるし、社会に対して求めるものはあるが、電話相談に訴えることではないと思うから。
 - ・ 理解ができているため。
- ✚ 記入なし
 - 理由) 話し合える場はほしいが、電話相談などは利用しにくい。

◆ 芦屋市の取組

芦屋市では、第3次人権教育・人権啓発に関する総合推進指針（平成29年3月策定）において、主な人権課題に性的少数者の人権を加え、課題解決に取り組んでいます。

○主な取組

- ✚ 申請書等の性別記載欄について、法律上記載を必要とするものなどを除き、削除を進めています。
- ✚ 厚生労働省の通知に基づき、届出により通称名を記載したり、裏面に戸籍上の性別を記載することができます。
- ✚ セクシュアルマイノリティの御相談があった場合は、人権推進課において、他市やNPOの実施している専門相談窓口などの情報をお知らせしています。

- ✚ 講演会、研修会の実施
 - 人権週間事業として、平成29年11月8日(水)「日々の生活と人権を考える集い」において、「性的マイノリティってなに？」をテーマに仲岡しゅんさんを講師として講演会を実施しました。
 - 平成29年12月20日(水)上宮川文化センターにおいて、LGBTをテーマに内藤れんさんを講師として人権講演会を実施しました。
- ✚ 市役所本庁舎や上宮川文化センターにおいて、LGBTのポスター展を実施しました。
- ✚ 広報あしや平成30年3月1日号で、セクシュアルマイノリティの人権について特集を掲載しました。
- ✚ 職員や教職員を対象とした研修会を複数回実施し、研修に参加した職員にレインボーバッジを配布しました。
- ✚ 各小中学校において、人権教育の取組の一つとしてLGBTを位置づけ、子どもたちに対して発達段階に応じた学習を進めています。

○今後の取組

多様な性について正しい理解が進むよう引き続き、様々な方法で啓発するとともに、職員の意識向上を図ってまいります。また、電話相談窓口の設置について検討していきます。